

哺乳子牛の呼吸器病対策について

哺乳子牛の呼吸器病は年間を通して発生しますが、特に晩秋から早春まで発生が増加します。これからの寒い季節は特に注意が必要です。症状のあるのに放っておくと、子牛の発育を妨げ、重症化すると死に至ることもあります。日頃の対策や健康観察を十分に行い、大切な哺乳子牛を呼吸器病から守りましょう。

1 症状

食欲不振、発熱、発咳、鼻汁、呼吸数の増加など

2 原因

寒さや移動などのストレスは哺乳子牛の免疫力を低下させます。また、ふん尿から発生するアンモニアは、哺乳子牛の気道の粘膜にある防御機能を低下させ、病原体の侵入を容易にします。病原体には、細菌、ウイルスなどがあり、単独感染の場合もありますが、複合感染の場合もあります。また、ミルクの誤嚥(えん)や敷料に含まれる粉じん・カビが原因となる場合があります。

3 対策

ストレスの軽減と飼養環境の整備(冷たい風が子牛に直接当たらないようにするなど)
換気による新鮮な空気の供給とアンモニアの発生を抑えるため敷料の頻繁な交換
保温(カーフジャケットやヒーター)と十分な栄養(出生時の、良質な初乳)の給与
なお、ミルクの誤嚥(えん)や敷料に含まれる粉じん・カビが疑われる場合には、哺乳方法や敷料の種類を変更してみてください。

年末年始の死亡牛の受入日程

年末の受入の最終日は、平成29年12月29日(金)です。
年明けは、平成30年1月3日(水)から受け入れを開始します。

神奈川県県央家畜保健衛生所

〒243-0417 海老名市本郷3658

電話：(046)238-9111 ファクシミリ：(046)238-9124

東部出張所 〒226-0015 横浜市緑区三保町2076

電話：(045)934-2378 ファクシミリ：(045)934-5432